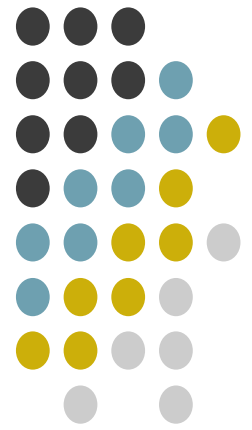




フェローシップ・ニュース No.119



第23回薬物依存者回復支援者(DARS)養成セミナー 「近藤恒夫さんとDARS ～フルートをしのぶ。そして未来へ～」

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域
アディクション研究所

発行日
2023年7月1日

2023年6月24日(土) 13:30～16:30
TKC飯田橋ワークショップで行われた
セミナーの一部を抜粋して掲載します。



石塚伸一先生（刑事司法未来 代表理事）

今年の3月に龍谷大学を定年退職し、今は本当に自由の身になって、なんて幸せなんだろうと思っている。

DARSは2009年に始まった。当時はリハビリテーションという言葉が使われていて、リカバリーという言葉があまり使われていなかった。問題提起も込めてDARS (Drug Addiction Recovery Supports) と名付けた。そのグループで第22回研修会を2021年12月4日と5日に行なった。12月4日に近藤さんの基調講演があった。



セミナー会場の様子

その後コロナで集まるのが難しくなった状況の中で近藤さんが亡くなった。いつか集まろうと話していて、今日になった。実は今日は私の誕生日。

人生の節目、節目で近藤さんと会った。1987年に北九州市立大学に就職し、その後ドイツに留学させてもらって帰ってきて、日本で勉強したことは一切使うことができないと思った。社会治療を勉強しに行っていたが、本人たちの意思で回復したいと思えばそれをサポートするというシステムなので、日本の刑務所の中では到底できなかった。刑事政策をやってもしょうがないと思い、実は大学を辞めようと思っていた。ニュースステーションが始まった時で、キャスターを公募していて、それに応募したこともあった。

そんな時に九州ダルクを作ったスマイルさんが、北九州にもダルクを作りたいという話を持って来た。そこで「北九州にダルクを呼ぶ会」を作った。1997年1月に近藤さんが来てくれた。怪しいおっさんだなと思った。すーと持っていかれる、何なんだろうと感じていた。そして北九州にダルクができた。

その後、1998年に京都の龍谷大学に移って、加藤さんが京都にダルクを作るという話があって、近藤さんが大学に来たとき、研究所にあった旗を立てる3本のポールを見て、「先生、ここにダルクの旗をたなびかせたいね！ 研究所をダルクのものにして、ダルク大学を作りたいね」と言った。ダルクの人はリカバードの人たちはいるけど、学問的なトレーニングをしていないから、それを身に付けたいといけな。その後チャンスもあって、市川さんがマスター号を取ってくれた。今は市川さんと加藤さんに龍谷大学のアディクション論をやってもらっている。この先どうなるかわからないが、ダルクを京都に作った時に近藤さんのとの約束もある。

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所 (Asia-Pacific Addiction Research Institute) の略称です。

全国のDARCやMAC等の社会復帰施設、福祉・教育・医療・司法機関と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

「近藤恒夫さんとDARS～フルートをしのぶ。そして未来へ～」	1
支援につなげる覚せい剤事件の弁護術(21)	5
マシーよりご寄付をいただきました！	5
藤岡ダルク入寮者からのメッセージ…コピーアパリは薬物検査キットを販売しています!!	6
司法サポートのご案内 家族教室スケジュール	8

ダルクの30周年のときだったか、話をしに行ったとき、大学教員としてダルクを支援すると言ってしまったので、大学を追い出されそうになったときにも辞めなかった。

最後は、2020年12月に22回目のダースを龍谷大学でやった。そろそろ定年なので、刑事司法未来という一般社団法人を作って、私と加藤さんが理事になった。これからどうしようかと考えていた時に、こんなことやろうと思っているんですよと近藤さんに言ったら、「ほら、長崎に行っている人、もう一人、マルちゃんていたよね」と。何で急に南口さんと丸山くんの名前が出たのか不思議なんだけど、その二人に理事になってもらえるかと頼んで理事になってもらった。

2020年3月に私の母親が亡くなって、5日目に発見された。家族だけでお別れしたが、お別れした気がしなかった。彼女の人生で関わったみんなが、ああだこうだと話すことによってはじめて別れが成り立つのであって、一方的に亡くなったからといって別れになるわけではない。私の中にはまだ母親がいて、別れた気がしない。遺品の始末をしても思い出

す。皆さんの心の中や、こちら辺に近藤さんがいる気がする。近藤さんがヒューって表れるのではないかと思ってしまう。今日は皆さんと思い出を共有することで一つの区切りになれば良いと思い、このような機会を設けた。

幸田実さん（東京ダルク）

東京ダルクの幸田です。65歳になって東京ダルクを定年退職しました。それまで責任者という立場でしたけど、今は無責任者という気楽な立場でダルクの仕事をしています。

一番最初に近藤さんに会ったのは、覚醒剤で逮捕されたときに情状証人に立ってもらったときだった。これは心強いことだと思っていたら、いきなり永遠としゃべり始め、裁判官が最後には怒り出した。もうその話はいいからと・・・被告人たちに喝入れるのはあったけど、情状証人に対して言うなんて。

テレビで紹介されたりしていたけど、裁判の時に初めて知って、ダルクに行きますということで弁護士に頼んだ。最初の印象はそういうことだった。その後ダルクで仕事をするようになって、僕自身が情状証人に立つようになって、ダルクの責任者が何を言おうとあまり関係ないと。お前が何を言っても関係ないよと。裁判が証人の時に、言いたいことは言っているよ。どういうことかなと思った。自分の言いたいことを言っていた。最初の出会いはそんなことだった。

期待するとか、何かお願いしたら大丈夫だろうということはない。この人は危ないな、何を言うかわからない人だなと。

当時近藤さんは東京ダルクの責任者としてやっていた。1994年3月くらい。その後に沖縄にダルクを作ることになった。ある時から沖縄沖縄と騒ぎ出した。その当時スタッフだった鈴木さんに手渡して沖縄に行ってしまった。ロイさんという強力なスポンサーがいて金銭面でもあらゆる面でも助けてもらっていた。当時補助金ももらってなくて、そのとき鈴木さんが引き継いで大変だったと思う。今月給料払えないので半分にしてくださいというときもあった。この後お願いしますと鈴木さんは去ってしまった。

そんな経緯で東京ダルクを受け継いできた。東京都からの補助金がいくらかもらえるようになった。近藤さんと同じようなやり方ではできないし。近藤さんが作ったダルクをどうやっていくか、悩んでいた。

古い倉庫を借りていた。移転しようと思った。近所を探した。ダルクはダメ、ダメっ貸せない。「まさかマックとは違いますよね？」とも言われた。諦めて古い倉庫を全面改装した。外壁から綺麗にした。近藤さんが来て何の未練もなく沖縄の新しいところに行った。執着がないし未練もない。古いものは捨て去ってしまう。

建物を綺麗にした時に、近藤さんがすごく喜んでいて。子どものようにはしゃいであちこちに電話して「東京ダルクが綺麗になったから見に来てくださいよ！」。もう日本ダルクをやっていたのに。自分がやってきたこと作ってきたことに対して愛情をもってやっているんだなと思った。



思い出を語る幸田実さん

僕自身が東京ダルクでの役割というかこれを受け継いでどうするのかと迷っている時期だった。近藤さんが作ったダルクをできる限り維持して続けていく。自分の任された役割だったのかと思って続けてきた。

一瞬、近藤さんてどんどん捨て去ってしまう印象だったけど、愛情と誇りをもってやっていた人。献金をくれた人を覚えている。いろんなことに使って、自分のこと、ほとんどダルクのことに使っていた。誰が自分のことを支援してくれたか、助けてくれたかを覚えている人。ことあるごとにあの人はこうだったとか細かく覚えている。逆にやられたことは執念深く覚えているのかもしれないが。

寄付してくれたものをパーッと使うから、本当にありがたみがあるのかな？と思っていたのかな？思うときもあるが、そういう思いを持ち続けている。そういう人でもあったかな。

尾田真言（アパリ理事長）

私は2000年にNPO法人アパリで活動を始め、近藤さんの跡を継いで去年4月に3代目の理事長に就任した。

近藤さんとの出会いは、1995年6月に堀川先生という大先輩の弁護士に、「あなたは刑事政策の研究者だよ。この分野の研究をしたら第一人者になれるから、一緒に見に行こう」と言われて連れて行かれた沖縄ダルクの一周年記念フォーラムだった。

フォーラム前日にダルク協力弁護団とダルク協力医師団の合同の会議が宜野湾のゲストハウスで開かれていて、そのとき近藤さん、村上先生、奥田弁護士とはじめて出会った。近藤さんの第一印象は、なんの気負いもなく自然体で飄々とした感じだった。

その後、東京の日本ダルク本部で開かれていためぐみ会という家族会に、薬物依存のを知るために、隅っこで見学させてもらうようになった。そこには子どもの薬物問題と借金問題を同じように考えているご家族がいたので、借金問題は法律によって簡単に債務整理で解決できるから悩むこともないでしょうというようなことを説明したりして、中に入り込んで行った。

その当時のダルクのスタッフは指がなかったり、刺青が入っていた人が多く、社会の中でダルクの活動を訴えていくときに、外部の支援団体が必要となるので、アパリを作ろうという近藤さんの計画があった。1998年に特定非営利活動促進法が施行されて、ボランティア団体が法人格を取得できる道が開かれたので、NPO法人を作れば全国の企業が寄附金をくれるのではと期待して、設立準備委員の一人になって、委員会の人たちと準備を始めた。ところが1998年4月に堀川先生が急逝してしまった。そのとき、近藤さんに「先生が亡くなってしまったんだから、あんた代わりにやってくれない？」と言われて引き受けた。2つ以上の都道府県にまたがるNPOは、当時は経済企画庁が担当で、定款を作って持って行っては直されたりといったやりとりが続いて、設立に2年もかかってしまった。やっと2000年2月にNPOが設立できたとき、設立準備委員会の人たちは他に正業のある人ばかりで、みんな離れて行ってしまった。

「アパリで働かない？ お給料出すから」と近藤さんに言われて通帳を渡された。1年前にメリノール宣教会から2千万もらっていたのだが、通帳を渡されたときには3百万しか残っていなかった。藤岡ダルクの施設では冬に重油代が月に50万もかかっていた。他に札幌に北海道本部、沖縄にはファミリーセンターがあって、4つの家賃を払わないといけなかった。3か月で資金は底をつき、アパリはこのままだとつぶれますよと毎日近藤さんに電話していたら着信拒否されてしまった。苦肉の策で、家族会の家族向けにパソコン教室を開いてそこでお金をもらったりしていた。

2000年にハワイのヒナマウカのカウンセラーの講演会が藤岡ダルクで開かれた後、みんなで金井の湯という温泉に行ったときに幸田さんから言われたことを今でも覚えている。「尾田さん法律の先生ですよ。近藤恒夫の言うことなんか信じて本当に大丈夫なんですか？」と。

その時に思い付いた。保釈金は150万くらい払わないと出してもらえない。その時は何もわからない素人だったので、初犯の人をダルクに体験入寮してもらって怖い思いをしてもらったら止められるだろうという単純な考えから、「保釈中の薬物研修プログラム」を2000年7月から始めた。その後、刑事司法手続のあらゆる段階で支援を提供する、司法サポートに発展して現在に至っている。



←

左から尾田真言、
近藤恒夫、志立玲子



思い出を語る尾田真言



アパリ13周年フォーラムにて

一見、近藤さんに騙されて働きはじめたように見えるけど、この活動が楽しくて続けている。この24年間、今日出勤したくないなと思ったことは一度もない。毎日のように面会に行ったり、裁判所で情状証人に立ったり、保釈や刑務所の出所出迎えで日本全国を飛び回るこの活動が楽しくてやっている。

司法サポートの経費が支払えない人もいたが、日工組社会安全研究財団から年間140万の交通宿泊費の助成を受けるようになり、そのような場合でも、クライアントから交通宿泊費の支払いがなくても行くことができ大変助かっている。

近藤さんは一応理事長だったが、これまで、何々をやれとか、それはするなとか指図されたことは22年間なかった。1回だけ怒られたのは、近藤さんを隣りに乗せて藤岡の山の中を車で飛ばした時に、テレビゲームやってるんじゃないぞと言われたことぐらいだったと思う。

あとはたまにやってきて、「何か面白いことはないか?」と言っていた。自由にやりたいように、アパリで活動できた。韓国には毎年のように、タイやハワイと一緒にいったことも楽しい思い出だ。

8年前に、まだ2年落ちの車を、もう飽きたから残りのローンだけで買わないかと、安く譲ってもらった。あなたには世話になってるからなと言ってくれた。

こんな感じでとても楽しくお付き合いさせていただいた。お蔭でダルクの人たちと仲良くなることができ、受け入れてもらえた。近藤さんと出会えて楽しい人生になったことを感謝している。



思い出を語る加藤武士さん

加藤武士さん（木津川ダルク）

僕にとって尊敬できる人は誰かと聞かれたら近藤恒夫と答えている。小学校の卒業文集で将来の夢や尊敬する人物を書くところで、親とも書けないし、誰も書ける名前が無くて、当時王貞治が活躍してたから、そう書いたら皆が納得するし形になるから書いていた。それ以降は考えたことなかったけど、ダルクに繋がって近藤さんと出会って、誰か名前を出せと言われたら近藤さんかな。僕からいうと父親のような存在だったし仲間でもある。大好きな人だった。よく麻雀をしていたが、韓国にもタイにも雀荘を探し行っていた。その時にいい加減なことをするので、「もう止める」と喧嘩みたいになった。「すまん」と謝った。大人気ないのだが、随分あとになって弱ってからだけど、次に麻雀パイをどこに持っていくという話をすると、あの時タイで喧嘩になったねという話になって「あのとき大人気なくてすまなかった」と謝ってくれた。

近藤さんは目標でもあるし越えられない人でもある。自分のできることを誰にも媚びずにやり続けていくこと。僕もあまり怒られたことはないが、沖縄で入寮者を車に乗せて行くときにビーチサンダルで運転しようとしたら、「どういうつもりか？ 仲間の命を預かりながらそんなサンダルで運転するつもりか?」と言われた。それ以外ほとんど怒られたことない。

奈良ダルクを設立するときに、クリーンがあまりない仲間がスタッフをやりたいということになった。他の仲間にはよそで研修させた方がいいよと言われた。そのスタッフが近藤さんに挨拶した時に、近藤さんは「お前クリーンどれくらいあるのか?」と聞いた。「1年ちょっとしかありません」と答えたら、「武士に手伝ってもらえ」とそれだけ言われた。失敗するかもしれないけどチャンスを与えてもらった。僕もそうしてもらった。沖縄から逃げて帰ってきたが、あいつはダメなやつだと思われたり、付き合いがなくなったわけではなかった。気にかけてもらっていた。それに応えたいと思った。

もうちょっと一緒にいろいろとやりたかったなと思う。たくさん仲間と一緒にいたい。

DARSは永遠に不滅です。これからもたくさんのアディクトを支えていけるよう、この先も引き続きよろしく願いいたします。



近藤恒夫と加藤武士さん



近藤恒夫と加藤武士さん

コラム

支援につなげる覚せい剤事件の弁護術（21）

理事・嘱託研究員・弁護士 高橋 洋平

ストレスが依存等の行動の原因になるのであれば、つかの間のリラックスタイムはとても重要ですね。

先日、三重ダルクが運営する賢島の「志摩LABO」施設に宿泊してきました。ここは、アルコールやギャンブル、薬物等の依存症をはじめ、さまざまな課題を抱えた方々の「回復」に、新しいコンセプト（Emergence）を加え、参加する一人一人がより積極的に創造的な未来を模索（Emergence =創発）することをコンセプトとした施設です（三重ダルクホームページ参照）。

施設はとても大きく、暖炉のある吹き抜けのホールをはじめ、会議室や和洋タイプの部屋等もあり、静かな環境はリラックスできる快適な空間でした。随所にある備品にもこだわりが見られます。かわいいお猿さんもいましたね。

そして、施設スタッフの丁寧で心地よいサービスは大変ありがたく、三重（志摩）の特産を楽しめる食事とても美味しいです。大人数でも少人数でも楽しめますね。

ここに宿泊すれば、自然豊かな志摩観光も楽しめます。何度も訪れたいくなる素敵な施設でした。

今回はアパリのメンバーで宿泊しました。つかの間のリラックスタイムを楽しめたのはもちろん、ここでの薬物談義を通じて、今後の新しい薬物政策を構築するための「より積極的に創造的な未来を（少しでも）模索（Emergence =創発）」できたのではないかと思います。

何よりも日々の業務からしばし解放され、パソコンやスマホを手放して、静かなホールにひとり座って読みたい本を読む。つかの間のリラックスタイムが非常にありがたかったです。



ディナーは松坂牛と手捏ね寿司



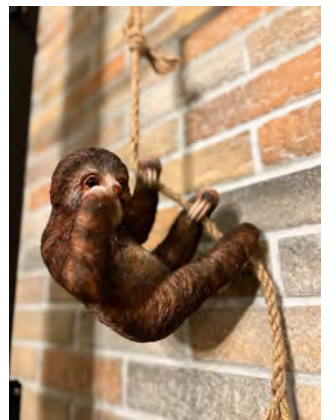
暖炉のあるホール



客室（和洋室）



志摩LABOの玄関にて



お猿さんを発見！！

マーシーこと田代まさしさんよりご寄付をいただきました！

マーシーは2022年10月に出所し、今ではダルクに通所しながら自分の活動を細々としているようです。最近ではインスタグラム等で近況を報告しています。

この度、「ヒロポン酢」というポン酢のCMに出演したということで、その出演料が入ったので、アパリと日本ダルクに寄付したいとの申し出がありました。

アパリとしてはとてもありがたいことです。感謝申し上げます！！

これからもマーシーの回復を見守っていきたいです！！



藤岡ダルク 入寮者からのメッセージ

「笑顔に支えられて」

コービー

NPO法人アパリは、群馬県藤岡市にある藤岡ダルクを運営しています。同施設の入寮者からのメッセージをお届けします！



※1 HALTとは
Hungry（空腹）
Angry（怒り）
Lonely（孤独）
Tired（疲労）
の頭文字をとって
HALT「ハルト」と
言います。



6/15 マックダルク
ソフトバレー大会



6/29 藤岡保健福祉事務所施設見学でのエイサー

こんにちは、アディクトのコービーです。自分は咳止め（ブロン）依存です。17歳の頃から使い始めて約30年間使い続けた筋金入りのヤク中です。ダルク歴は10～12年くらいです。自分はHALT(※1)の寂しさと怒りの問題があり、自分が17歳の時におふくろが死んでしまって、口ではそんなこと言っていなかったかもしれませんが、深層心理の中ではおふくろの死は当時の自分にとってあまりにも辛い出来事でした。その後、親父も死んで1人ぼっちになり、4つ上に姉がいたのですが家庭があったので迷惑を掛けられないという思いがありました。でも結局、姉には散々迷惑を掛けてしまって申し訳なく思っています。

今ではあんなに好きだった咳止め（ブロン）が、今年の8月で8年のクリーンを作ることができそうです。どうして薬が止まっているのか、自分でも分からないというのが実感です。

3度の飯より大好きだった薬が止まるなんて自分でもビックリです！仲間の力なのか自分が成長したのか、はたまた自分より偉大なカハイヤーパワーの力なのか、何らかの力が働かないとつじつまが合いません。

東京ダルク、磐梯ダルク、新潟ダルク、4年のクリーンが在りながらスリップした2度目の東京ダルク、そして今の藤岡ダルク。いつも近くにいた先行く仲間たちにすごく勇気付けられました。そこには薬が止まっている仲間の姿がありました。新しい仲間は、苦しくて辛くて夜寝れないけど、でも朝になると「おはよう」と元気に挨拶してくれる仲間がいて、そこに希望を見いだせてくれました。

初めてNAに繋がった時に仲間が教えてくれた事を思い出します。

「辛くて当たり前、苦しくて当たり前、薬を辞めていれば喜びは必ずやってくる」を合言葉に今まで頑張ってきました。ここまで来るまでにはどれだけの苦勞をしてきた事か。

脳梗塞から始まっているいろいろな事がありました。最初は、言語障害で「あ～」とか「う～」とかしか喋れなかった自分が、今では下手くそだけれどもミーティングで話ができるようになりました。ミーティングで分かち合いがしたかったので、スタッフが作ってくれた「早口言葉集」を発声練習のリハビリとして1日3回やらせてもらっています。仲間と一緒に一生懸命頑張っ取り組んだことは一生忘れません。いつもよだれを垂らしては「コービーよだれ！しょうがないなあ」と仲間がバンダナをくれた事、今では懐かしい思い出です。

ペットボトルのフタを力が無くて開けられ無かった事、着替えがままならなかった事、いつもメガネが汚れて汚かった事、布団もろくに畳めなかった事、他にもたくさん仲間には迷惑を掛けっぱなしでした。親父からは「人に迷惑をかけちゃダメ」と言う教をことごとく破ってしまい天国にいる親父には申し訳なく思うし、自分は仲間なしでは生きていけないんだなと実感しています。

でもこんな自分でも転機がめぐってきたんです。藤岡ダルク入寮から生活訓練施設への通所を経て、現在B型就労にまでこぎつけました。今では農業やスーパーの清掃業を通して働かせてもらっています。農業ではキャベツや枝豆の雑草抜きから集荷までの工程のお手伝いをさせてもらっています。大変だけれども太陽の下で真っ黒になりながら体を動かすことの大切さを知りました。太陽のパワーを全身に浴びながら日々頑張っています。

農業、清掃業と人の役にたつ事の大切さを知りました。心身ともに元気になったような気がします。そして笑顔がふえたような気がします。自分は笑顔には自信があります。楽しい事には目がないので、以前プログラムでやっていた「笑いヨガ」に通じる部分があって、今でも笑顔でいることは大切にしています。東京ダルクのスタッフに言われた「不安な事があったら、笑ろうとけ！笑ろうとけ！」の意味がやっとわかった気がします。これから先も回復していく中で面白くない事も沢山あると思います。怒りが出た時には深呼吸をして冷静になり、楽しい事を考えるようにして笑顔を大切にしていきたいと思っています。

それから自立の問題です。まだまだ先になりそうですが…。問題は山積みです。たった一人の姉への埋め合わせもちゃんと出来ていませんが、最近では近況報告や年賀状のやりとりができるようになりました。10年間音信不通だった姉と文通の約束が出来たのでホッとしています。これから関係を修復していきたいと思っています。

また7月からB型就労で清掃業をさせてもらっているスーパーでバイトとして働けることが決まりました！本当にうれしかったです！コツコツと頑張ってきて本当良かったです。

過去の過ちはどうしても消えません。今できる事を自分なりに一生懸命頑張りたいのと、依存症は一生の病気なんでNAとダルクを信じて取り組んでいきたいと思っています。

『必ず努力すれば効果がある』ちっちゃい事からコツコツやって行くことはダルクで教えてもらったことです。昔は、行動も恐る恐るやっていて自己肯定感も低く、自分の歩んでいる道はあっているのかわからなかったけど、今は薬に頼ってないので正しい道を歩んでいるんだという事に自信ができました。この先もNAとダルクの仲間と共に切磋琢磨して回復していきたいです。

昔の古い生き方を断ち切って行きたいです。まだまだいつ欲求が入るか分からない怖い病気なので、油断せずに自分はアディクトなんだという事を忘れずに、これからも回復し一生懸命生きていきたいです！



5.3 土と火の里
「春のこどもまつり」でのエイサー

アパリは薬物検査キットを販売しています！！

薬物検査は、クリーンであることを証明できるとともに、使ったことを知られてしまうから止めておこうというブレーキにもなります。日本では薬物検査キットを個人には販売していないので、欲しくても入手できなくて困っている方が多いです。

そこでアパリでは、誰でも簡単に薬物検査キットが使えるように、AmazonとShopifyで現時点で次の3種類の商品を販売しています。

<https://apari.or.jp/testkit/> から購入できます。



覚醒剤尿検査キット
【1個1,540円
1箱25個入り30,800円】

日本で流通している覚醒剤はMET(メタンフェタミン)なので、このキットを使うことで、尿中に覚醒剤が含まれているかどうかを検出できます。紙コップ等に尿を少量採取し、付属のスポイトでキットの検査窓に数滴たらすと数分で結果が出ます。



マルチタイプ唾液検査キット
【1個2,200円
1箱25個入り44,000円】

MET、AMP、THC、COC、OPIの5種類の薬物を検出できます。キットの先端の綿の棒をなめるだけで数分で結果が出ます。尿検査キットよりも検出精度は高いのですが、尿検査より検出できる日数は短くなっています。



9種類の薬物を検出するマルチタイプ尿検査キット
【1個2,200円、1箱25個入り44,000円】

MET、AMP(アンフェタミン→METの代謝物)、THC(テトラヒドロカンナビノール→大麻の成分)、COC(コカイン)、OPI(オピエイト→ヘロインなどの麻薬)、PCP(フェンサイクリジン→エンジェルダストとも呼ばれる麻酔薬)、BZO(ベンゾジアゼピン系睡眠薬)、BAR(バルビツール酸系睡眠薬)、TCA(トリサイクリック・アンチディプレッサント 三環系抗うつ薬)の9種類の薬物を検出できるキットです。

※ 価格は全て
税込みです。

嗜癮行動家族教室の テーマが新しくなりました！

- 第1回 発達障がいとは
- 第2回 発達障がいの診断法
- 第3回 発達障がいの治療
- 第4回 発達障がいと依存症との関係
- 第5回 発達障がいの人間関係
- 第6回 発達障がいの回復とは
- 第7回 発達障がいのための社会資源
- 第8回 まとめ

依存症のご家族の方、また発達障がいのご家族の方がご参加いただけます。



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

○アパリ東京本部
〒162-0055
東京都新宿区余丁町14-4
AICビル1階
電話：03-5925-8848
FAX：03-5925-8984
Email：info@apari.or.jp

○藤岡ダルク
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番地
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313
○入寮費：月額13万円+生活費
1日千円（初月のみ14.5万円）
（税別）
*生活保護の方も可能
○入寮条件：依存症から回復
及び自立をしようとしている
本人。男性のみ。
○入寮期間：個人により差が
あります。
<https://fujiokadarc.com/>



2019年7月よりホームページが新しくなりました。ぜひご覧ください。
<https://apari.or.jp>
<https://www.facebook.com/AsiaPacificAddictionResearchInstitute/>

発行責任者：志立玲子
2023年7月1日発行
定価 1部 100円

＜司法サポートのご案内＞

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決を受け、また薬物のある日常に戻るしかなかった日本において、初めて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みを2000年7月からしています。

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は10%以下です。保釈中のプログラムの提供、受刑中の身元引受、出所出迎えをしてリハビリ施設につなげるまでをコーディネートします。

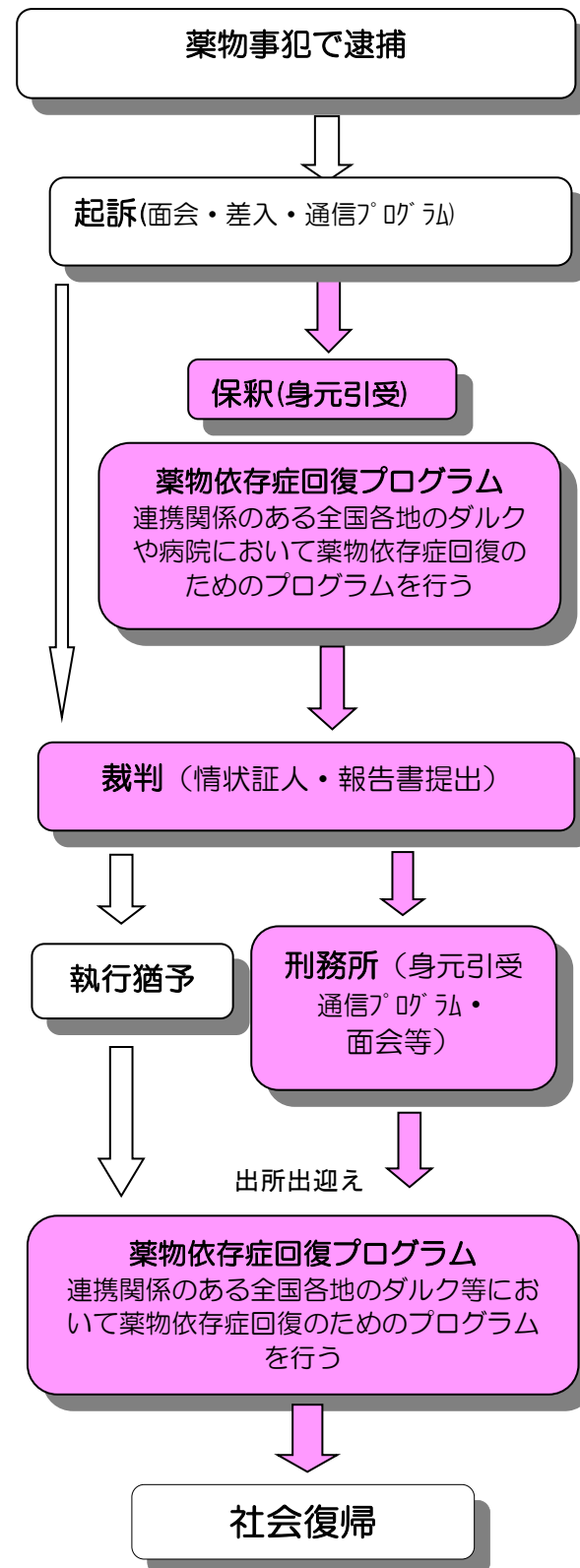
ギャンブルの問題が原因で逮捕された方やクレプトマニアの方の司法サポートも行っています。

[料金：コーディネート費用として20万円(税別)。交通費・宿泊費の実費が別途必要です]

窃盗、横領、詐欺等で逮捕されたご家族の相談もお受けしています。

【お問合せは東京本部まで】

アパリの支援



＜アパリ家族教室スケジュール・東京＞

第1月曜	連続講座	土曜	嗜癮行動家族教室
7/3(月) 13:30~ 18:30~	第1回 薬物依存症によるダメージと回復	7/8(土) 17:00	第2回 発達障がいの診断法
8/7(月) 13:30~ 18:30~	第2回 薬物の欲求と「きっかけ」「危険な状況」への対処について	8/12(土) 17:00	第3回 発達障がいの治療
9/4(月) 13:30~ 18:30~	第3回 薬物依存症の心にある2つの考え	9/9(土) 17:00	第4回 発達障がいと依存症の関係
10/2(月) 13:30~ 18:30~	第4回 本人・家族の心の成長- 自律心・自尊心を伸ばす関わり	10/14(土) 17:00	第5回 発達障がいの人間関係

【対象】ご家族、支援者等(本人は参加できません)

連続講座と嗜癮行動家族教室は全8回ですが、どの回からでも参加できます。

【場所】アパリ東京本部 【参加費】3,000円(2名以上の場合は4,000円)

連続講座 講師：志立玲子(精神保健福祉士・公認心理師)

進藤俊明(青梅アライブ・精神保健福祉士)

嗜癮行動 講師：梅野充(アパリクリニック精神科医)、志立玲子